

土壌医検定参考書の（正）（誤）箇所修正のお願い

一般財団法人 日本土壌協会

土壌医検定参考書はこれまで数回にわたり版を重ねてきており、現在、1級参考書は4刷版、2級参考書は6刷版、3級参考書については5刷版が刊行されております。その過程で修正すべき箇所がいくつか明らかとなり、その都度修正してきております。

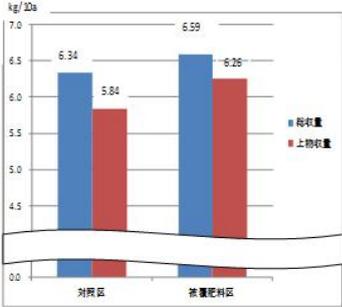
土壌医検定参考書は試験問題出題のベースとなるものでありますので、今回、以下のように正誤表をまとめました。検定試験の出題についてはこれまで修正箇所に係る問題は避けるようにしてきました。しかし、知識習得の面で多くの方々にご迷惑をおかけしており、このことについて深くお詫び申し上げます。

正誤表では対象となる刷版と正誤内容を掲げておりますので、大変お手数をお掛けいたしますがお手持ちの参考書の刷版をご確認の上、該当箇所を修正して頂きますようお願い申し上げます。

また、昨年度刊行いたしました土壌医検定試験既出問題集の一部にミスプリントがありました。大変申し訳ございませんがこれについても該当箇所を修正して頂きますようお願い申し上げます。（てにをは等の修正は除きました。）

1. 土壌医検定参考書1級の正誤

対象刷版	ページ	行、図表（正）（誤又は更新）												
1～3刷	P77	表1-42 サクランボ結果と土壌化学性との関係 値の修正 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>Mg/K（当量比）</th> <th>（正）</th> <th>（誤）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良好</td> <td>3.3</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>不良</td> <td>2.0</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>極めて不良</td> <td>0.7</td> <td>0.9</td> </tr> </tbody> </table>	Mg/K（当量比）	（正）	（誤）	良好	3.3	4.8	不良	2.0	4.1	極めて不良	0.7	0.9
Mg/K（当量比）	（正）	（誤）												
良好	3.3	4.8												
不良	2.0	4.1												
極めて不良	0.7	0.9												
1～3刷	P77	（左段）15～16行目、値の修正 （正）3.3 0.7 （誤）4.8 0.9												
1～2刷	P87	写真1-16 タイトル文字の修正 （正）ブドウ （誤）トマト												
1～2刷	P111	（右段）11～12行目 文字の修正 （正）向上 （誤）低下												
1～2刷	P111	（右段）9行目～10行目 単位の修正 （正）56.0kg/10a、13.2kg/10a、41.3kg/10a （誤）56%、13%、41%												
1～2刷	P114	（左段）2行目 文字の修正 （正）溶出量は減少し （誤）吸収量は増加し												
1～2刷	P114	（左段）4行目 文字の削除 （正） 下図のように												
1～2刷	P143	（右段）下から2行目 文字修正と挿入 （正）少なく （誤）多く												

対象刷版	ページ	行、図表 (正) (誤又は更新)																					
1～2刷	P185	(右段) 下から9行目 文字の修正 (正) 土壌伝染性病原菌 (誤) 植物の病気																					
1～2刷	P199	(左段) 2行目 文字の修正 (正) 確認 (誤) 弱められた																					
1～3刷	P223	表5-1 差替(統計値の更新による) 表5-1 化成肥料及び被覆窒素肥料の生産量推移(暦年) (単位:トン) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2007年</th> <th>2008年</th> <th>2009年</th> <th>2010年</th> <th>2011年</th> <th>2012年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>化成肥料</td> <td>1,737,378</td> <td>1,725,679</td> <td>1,256,223</td> <td>1,337,797</td> <td>1,289,379</td> <td>1,279,000</td> </tr> <tr> <td>被覆窒素肥料</td> <td>65,290</td> <td>71,279</td> <td>53,195</td> <td>69,610</td> <td>78,685</td> <td>81,285</td> </tr> </tbody> </table> 資料: 農林水産省		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	化成肥料	1,737,378	1,725,679	1,256,223	1,337,797	1,289,379	1,279,000	被覆窒素肥料	65,290	71,279	53,195	69,610	78,685	81,285
	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年																	
化成肥料	1,737,378	1,725,679	1,256,223	1,337,797	1,289,379	1,279,000																	
被覆窒素肥料	65,290	71,279	53,195	69,610	78,685	81,285																	
1～3刷	P230	図5-10 肥効調節型肥料を用いた抑制キュウリの収量、上物比率の比較図の差替  <table border="1"> <caption>図5-10 肥効調節型肥料を用いた抑制キュウリの収量、上物比率の比較</caption> <thead> <tr> <th>区画</th> <th>総収量 (kg/30a)</th> <th>上物収量 (kg/30a)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対照区</td> <td>6.34</td> <td>5.84</td> </tr> <tr> <td>養分肥料区</td> <td>6.59</td> <td>6.26</td> </tr> </tbody> </table>	区画	総収量 (kg/30a)	上物収量 (kg/30a)	対照区	6.34	5.84	養分肥料区	6.59	6.26												
区画	総収量 (kg/30a)	上物収量 (kg/30a)																					
対照区	6.34	5.84																					
養分肥料区	6.59	6.26																					
1～2刷	P231	表5-10 肥効調節型肥料使用時における肥料代について (A農協) 数字の修正 (正) 6,498 (誤) 3,458																					
1～2刷	P252	写真5-5 写真提供の社名修正 (正) ヤンマー(株) (誤) 片倉チッカリン(株)																					

2. 土壤医検定参考書 2 級の正誤

対象刷版	ページ	行、図表 (正) (誤又は更新)
1 ~ 3 刷	P10	<p>図 1 - 1 7 大臣・知事登録届出の一部文字の修正(2ヶ所) (正)</p> <p>図 1 - 1 7 肥料の種類</p> <p>(誤) 上部箇所：知事届出肥料、下部箇所：知事登録肥料</p>
1 刷	P23	<p>(左段) 下から 3 行 文章の削除 土壌の酸性が強くなるにつれて窒素、リン酸、加里、石灰、苦土の溶解性が低下し肥効が落ちてくる。</p>
1 ~ 5 刷	P25 P61 P138	<p>P25 (左段) 19 行目、P61 (左段) 最下行及び P138 (左段) 下から 7~8 行目 文字修正 (正) pH5.0 前後 (誤) pH5.5 ~ 6.0</p>
1 ~ 5 刷	P30	<p>(右段) 5 行目 文字修正 (正) 定植後 10 日 (誤) 定植後 30 日</p>
1 ~ 2 刷	P32	<p>(左段) 上から 5 行目 文字修正 (正) 低い (誤) 高い</p>
1 ~ 5 刷	P37	<p>図 3 - 1 9 の下に注の挿入 注 1) 収量増加指数：カリ無施用区の収量を 100 としてカリ施用区の収量を指数化したもの 注 2) 追肥効果：カリ無施用区の収量を 100 としてカリ追肥区の収量を指数化したもの</p>
1 ~ 3 刷	P42	<p>(左段) 下から 2 行目 文字修正 (正) Ca/Mg (誤) Mg/K</p>
1 ~ 3 刷	P48	<p>2) ミリグラム当量(meq)とはの枠内 11 行目 文字修正 (正) 原子価 1 (誤) 原子価 2</p>
1 ~ 5 刷	P50	<p>(左段) 上から 20 行目 ~ 21 行目 単位修正 (正) 56.0kg/10a、13.2kg/10a、41.3kg/10a (誤) 56%、13%、41%</p>
1 ~ 5 刷	P53	<p>図 3 5 の縦軸と横軸の記号の単位をわかりやすく置き換え (正) 縦軸 (kg 10a⁻¹) (誤) 縦軸 (Mg ha⁻¹) (正) 横軸 (%) (誤) 横軸 (g kg⁻¹)</p>

対象刷版	ページ	行、図表 (正) (誤又は更新)																								
1～5刷	P55	文字修正 (正)・・・(イ) 土性や土壤水分と微量元素の吸収 (誤)・・・(イ) 土壤物理性 文字修正 (正)・・・(ウ) 養分間の拮抗作用による微量元素吸収抑制 (誤)・・・(ウ) 拮抗作用																								
1～3刷	P59	(左段) 14行目 文字挿入 (正)・・・発生圃場では健全圃場の3倍 (誤)・・・発生圃場の3倍																								
1刷	P62	(左段) 2)リン酸 2行目 文字修正 (正) 20mg (誤) 30mg																								
1～5刷	P65	表4-4 差替 表4-4 塩基改良に用いられる肥料と成分 資料：農林水産省 (一部改変) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>登録名</th> <th>アルカリ分</th> <th>炭カルからの換算(倍率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>炭カル</td> <td>炭酸カルシウム肥料</td> <td>53</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>苦土炭カル</td> <td>53.0 苦土入り炭酸カルシウム</td> <td>53</td> <td>×1</td> </tr> <tr> <td>苦土炭カル</td> <td>10 炭酸苦土カル</td> <td>55</td> <td>×0.96</td> </tr> <tr> <td>消石灰</td> <td>消石灰</td> <td>65</td> <td>×0.82</td> </tr> <tr> <td>20 ようりん</td> <td>20.0 熔成りん肥</td> <td>50</td> <td>×1.06</td> </tr> </tbody> </table>	品名	登録名	アルカリ分	炭カルからの換算(倍率)	炭カル	炭酸カルシウム肥料	53	1	苦土炭カル	53.0 苦土入り炭酸カルシウム	53	×1	苦土炭カル	10 炭酸苦土カル	55	×0.96	消石灰	消石灰	65	×0.82	20 ようりん	20.0 熔成りん肥	50	×1.06
品名	登録名	アルカリ分	炭カルからの換算(倍率)																							
炭カル	炭酸カルシウム肥料	53	1																							
苦土炭カル	53.0 苦土入り炭酸カルシウム	53	×1																							
苦土炭カル	10 炭酸苦土カル	55	×0.96																							
消石灰	消石灰	65	×0.82																							
20 ようりん	20.0 熔成りん肥	50	×1.06																							
1～6刷	P64 P159 P160	四角枠内 4行目文章の順位一部変更 5)石灰質肥料の四角枠の3行目文章順位一部変更 (左段)13行目文章の順位一部変更 (正)・・・苦土石灰、炭酸石灰(炭カル) (誤)・・・炭酸石灰(炭カル) 苦土石灰																								
1刷	P73	(右段) 写真 4-4 タイトル文字修正 (正) ディスク (誤) ボトム																								
1～3刷	P93	(左段) 2行目 文字修正 (正) 土性 (誤) 土質																								
1～6刷	P111	(左段) 11行目 文字修正 (正) 土壤水分 (誤) 土壤湿度																								
1～6刷	P124	(右段) 最下行 文字修正 (正) C,H,O だけで構成されている炭水化物 (誤) 有機物																								
1～5刷	P126	文字追加 (右段) 下から1行目 (正) 柔組織病 (誤) 柔組織																								

対象刷版	ページ	行、図表 (正) (誤又は更新)																																																	
1 ~ 5 刷	P146	表 7 - 1 0 各種センチュウ対抗作物の抑制効果 (正)ジャワ (誤) ジャワ (正)ネマキングとネグサレセンチュウ キタが交差する をトル																																																	
	P150	右枠内 文字追加 表 8 - 1 普通肥料 特殊肥料の分類 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">普通肥料</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">微量元素 複合肥料</td> <td>マンガン、ホウ素の 2 成分を含むかこの 2 成分に苦土を含む肥料で三要素は含 まない。</td> </tr> </table>	普通肥料	微量元素 複合肥料	マンガン、ホウ素の 2 成分を含むかこの 2 成分に苦土を含む肥料で三要素は含 まない。																																														
普通肥料	微量元素 複合肥料	マンガン、ホウ素の 2 成分を含むかこの 2 成分に苦土を含む肥料で三要素は含 まない。																																																	
1 ~ 5 刷	P151	<p>最近の統計による図表及び表現の更新</p> <p>最近における主な肥料の増減の特徴としては、次のようなことが挙げられる (図 8 - 1、表 8 - 2)。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 肥料成分の窒素質肥料、リン酸質肥料、加里質肥料は平成 20 年に発生した肥料価格高騰以降は大きく落ち込んでいる (図 8 - 1)。 ② 複合肥料は平成 20 年の価格高騰後は減少した状態で後大きな変動は見られてない (表 8 - 2)。 ③ 指定配合は、平成 21 年度以降漸増傾向にある (表 8 - 2)。 ④ 有機質肥料、汚泥肥料は大きな変動は見られない (表 8 - 2)。 ⑤ 特殊肥料は増加の傾向である。そのほとんどは堆肥である (表 8 - 2)。 <div style="text-align: right;">  <p>図 8 - 1 肥料成分別国内需要量の推移 (農林水産省) *肥料年度は 7 月～翌年 6 月</p> </div> <p style="text-align: center;">表 8 - 2 複合肥料と有機質肥料等の生産実績推移 資料:農林水産省 (単位:トン)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>平成20年</th> <th>平成21年</th> <th>平成22年</th> <th>平成23年</th> <th>平成24年</th> <th>平成20年と平成24年の対比(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>複合肥料</td> <td>1,998,411</td> <td>1,470,043</td> <td>1,569,428</td> <td>1,529,451</td> <td>1,542,210</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>指定配合肥料</td> <td>2,035,717</td> <td>1,295,174</td> <td>1,340,777</td> <td>1,555,973</td> <td>2,222,952</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>汚泥肥料等</td> <td>1,393,879</td> <td>1,317,052</td> <td>1,416,310</td> <td>1,380,096</td> <td>1,346,186</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>有機質肥料等</td> <td>1,098,442</td> <td>632,428</td> <td>1,066,358</td> <td>1,306,189</td> <td>1,127,761</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>特殊肥料</td> <td>6,263,761</td> <td>6,383,647</td> <td>7,950,099</td> <td>6,841,447</td> <td>7,004,299</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>(内)堆肥</td> <td>5,351,076</td> <td>5,443,664</td> <td>6,912,694</td> <td>5,910,660</td> <td>6,028,054</td> <td>113</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成20年と平成24年の対比(%)	複合肥料	1,998,411	1,470,043	1,569,428	1,529,451	1,542,210	77	指定配合肥料	2,035,717	1,295,174	1,340,777	1,555,973	2,222,952	109	汚泥肥料等	1,393,879	1,317,052	1,416,310	1,380,096	1,346,186	97	有機質肥料等	1,098,442	632,428	1,066,358	1,306,189	1,127,761	103	特殊肥料	6,263,761	6,383,647	7,950,099	6,841,447	7,004,299	112	(内)堆肥	5,351,076	5,443,664	6,912,694	5,910,660	6,028,054	113
肥料名	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成20年と平成24年の対比(%)																																													
複合肥料	1,998,411	1,470,043	1,569,428	1,529,451	1,542,210	77																																													
指定配合肥料	2,035,717	1,295,174	1,340,777	1,555,973	2,222,952	109																																													
汚泥肥料等	1,393,879	1,317,052	1,416,310	1,380,096	1,346,186	97																																													
有機質肥料等	1,098,442	632,428	1,066,358	1,306,189	1,127,761	103																																													
特殊肥料	6,263,761	6,383,647	7,950,099	6,841,447	7,004,299	112																																													
(内)堆肥	5,351,076	5,443,664	6,912,694	5,910,660	6,028,054	113																																													
1 ~ 5 刷	P151	<p>文字削除、追加 (農林水産省による石灰窒素の緩効性肥料の指定を受けての記載文章の修正)</p> <p>(2) 1) 窒素質肥料 枠内</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>窒素質肥料には作物への吸収が速効性、遅効性、緩効性緩効性(遅効性)のものがあり、速効性のものとして、硫安、塩安、硝酸石灰等、やや緩効的なものとして、IB 窒素、CDU 窒素、ウレアホルム窒素、石灰窒素等がある。</p> <p>窒素質肥料は施用したあとに残る副成分により、土壌の pH が酸性になるもの(生理的酸性肥料)、アルカリ性になるもの(生理的アルカリ性肥料)、影響の少ないもの(生理的中性肥料)がある。</p> </div>																																																	

対象刷版	ページ	行、図表 (正) (誤又は更新)
1～5刷	P151	<p>左段下から2行目</p> <p>窒素質肥料は、アンモニウム塩または硝酸塩を含むとして硫酸、塩安、硝酸石灰などが代表的でこれらは水に溶けやすく速効性である。また、土壌施用後に分解されて無機態窒素になる変わるものとして、尿素、化学合成緩効性窒素肥料（IB窒素、CDU窒素、ウレアホルム窒素、石灰窒素等）などがある。</p> <p>石灰窒素は土壌中でシアニド態の窒素から尿素態窒素に変化する。これらは速効性肥料（石灰窒素はやや遅効）であるがこれらの溶解性を変えた肥効調節型窒素肥料もある。</p> <p>尿素は低温条件の場合を除き速やかに無機化するため速効性である。これに対し、化学合成緩効性窒素肥料は土壌中で加水分解や微生物分解によりアンモニア態窒素を経て硝酸態窒素にゆっくり変化する。</p> <p>また、樹脂系の被膜や硫黄で被覆することで窒素成分の溶出をコントロールするものとして被覆窒素肥料があり、化学合成緩効性窒素肥料も含めて緩効性窒素肥料という。</p> <p>窒素質肥料の殆どはアンモニアを原料物質として製造されているが、合成アンモニアを直接原料とすることは殆ど少なくなっており、一旦鉄鋼、繊維などほかの工業において使った後、肥料として回収するケースが多い。また、窒素質肥料を単肥として使うことも少なくなっており、配合肥料、化成肥料としてリン酸、加里などと併せて施用されるケースが多い。近年は、化成肥料の窒素原料としてはリン安が使われることが多くなっている。</p>
1～5刷	P152	<p>ア．アンモニア態窒素肥料</p> <p>（ア）硫酸 3行目 文字追加</p> <p>硫酸は水田や畑作などで基肥、追肥のいずれにも広く利用されており、</p> <p>（生理的酸性肥料、生理的アルカリ性肥料、生理的中性肥料）</p> <p>生理的酸性肥料：化学的には中性であるが、植物に肥料成分が吸収された後に酸性の副成分が残るようになり土壌のpHを下げる肥料で、硫酸、塩安等がある。</p> <p>生理的アルカリ性肥料：植物に肥料成分が吸収された後にアルカリ性の副成分が残るようになり土壌のpHをあげる肥料で熔成りん肥、石灰窒素等がある。</p> <p>生理的中性肥料：植物に肥料成分が吸収された後に土壌に酸性やアルカリ性になる副成分を残さない肥料で、硫酸、尿素、過リン酸石灰などがある。</p>

対象刷版	ページ	行、図表 (正) (誤又は更新)
1 ~ 5 刷	P152	<p>(イ) 塩安 塩安は硫酸と同様に速効性の生理的酸性肥料であり、アンモニア態窒素として 25%含むものが多い。主に水稻に使用され、基肥、追肥のいずれにも適し、汎用性のある窒素肥料であるとする。</p> <p>(行改め) 塩安は副成分として塩素イオン・・・・・・・・・・EC (電気伝導度) 浸透圧を主昇させる高める。そのため、畑土壌では塩安が多量に施用されると、・・・・・・・・硫酸より高い。</p> <p>(行改め) また塩安は硫酸より土壌酸度を強める傾向がある。これは塩安と硫酸を主壌に施用すると塩安は土壌中のカルシウムと結合してそれぞれ塩化カルシウムに、硫酸は硫酸カルシウムを形成するが、塩化カルシウムは硫酸カルシウム前者は後者より水に溶けやすく、カルシウムを伴って流亡しやすいからであることが挙げられている。</p>
1 ~ 5 刷	P153	<p>(右段) 6 行目 表現修正 (農林水産省による石灰窒素の緩効性肥料の指定を受けての記載文章の修正)</p> <p>エ、石灰窒素 石灰窒素は窒素全量が 20~21%を含む塩基性肥料であり、生理的アルカリ性肥料である。窒素の形態はカルシウムシアナミドであり、土壌に施用されると加水分解で尿素に変化し、土壌中の微生物が生成する酵素ウレアーゼによってアンモニア態窒素に変わる。</p> <p>このアンモニア態窒素は土壌によく吸着する性質をもっている。一部のシアナミドはジシアンジアミドに変化するが、この化合物が硝酸化成作用を抑制する効果があり、この作用でアンモニア態窒素として土壌中に長く保持され、ゆっくりと硝酸態窒素に変わることで緩効的な肥効を示す。</p> <p>一方、カルシウムシアナミドは土壌溶液に溶けてシアナミドを遊離し、殺虫、殺菌、除草効果があり、その特性を利用して土壌中の病虫害防除、雑草防除の農薬として登録されている。シアナミドが尿素、アンモニアに変わるのに一定の期間が必要であり、一般に施肥後一週間程度の期間を空けて播種や定植を行う必要がある。</p>
1 ~ 6 刷	P160	<p>表 8 - 9 石灰質肥料の同一酸度中和に要する資材量の比率 炭酸石灰の行 最右列 (正) 104 (誤) 96</p>

対象刷版	ページ	行、図表 (正) (誤又は更新)								
1～5刷	P163 P164	<p>図8-3 トップ行に文字追加</p> <p>化学合成緩効性窒素肥料・・・IB、CDU、ウレアホルム、グアニル尿素、オキサミド、石灰窒素</p> <p>図8-4 に文字追加</p> <p>加水分解・・・・・・・・・・IBDU窒素</p> <p>微生物分解 酸化型・・・・・・・・ウレアホルム窒素、オキサミド</p> <p>還元型・・・・・・・・GUP(S)窒素</p> <p>加水・微生物分解・・・・・・・・CDU窒素</p> <p>加水・微生物分解(硝酸化成抑制作用)・・・石灰窒素 1行追加</p>								
1～6刷	P168	<p>表8-12 政令土壌改良資材の種類と特性等</p> <p>バーミキュライトとパーライトの特性・効果の欄 入れ替えと一部追記</p> <p>(正)</p> <table border="1"> <tr> <td>バーミキュライト</td> <td>多孔質で透水・通気性に優れ、重粘土畑や、樹園地の改良、鉢物用土の配合資材などにも用いられている。用途(主な効果)は透水性の改善</td> </tr> <tr> <td>パーライト</td> <td>軽量で保水性に優れ、肥料成分の吸着力にまざるので、園芸用土の配合資材として広く用いられている。用途(主な効果)は保水性の改善</td> </tr> </table> <p>(誤)</p> <table border="1"> <tr> <td>バーミキュライト</td> <td>軽量で保水性にすぐれ、肥料成分の吸着力にまざるので、園芸用土の配合資材として広く用いられている。</td> </tr> <tr> <td>パーライト</td> <td>多孔質で透水・通気性に優れ、重粘土畑や、樹園地の改良、鉢物用土の配合資材などに用いられている。</td> </tr> </table>	バーミキュライト	多孔質で透水・通気性に優れ、重粘土畑や、樹園地の改良、鉢物用土の配合資材などにも用いられている。用途(主な効果)は透水性の改善	パーライト	軽量で保水性に優れ、肥料成分の吸着力にまざるので、園芸用土の配合資材として広く用いられている。用途(主な効果)は保水性の改善	バーミキュライト	軽量で保水性にすぐれ、肥料成分の吸着力にまざるので、園芸用土の配合資材として広く用いられている。	パーライト	多孔質で透水・通気性に優れ、重粘土畑や、樹園地の改良、鉢物用土の配合資材などに用いられている。
バーミキュライト	多孔質で透水・通気性に優れ、重粘土畑や、樹園地の改良、鉢物用土の配合資材などにも用いられている。用途(主な効果)は透水性の改善									
パーライト	軽量で保水性に優れ、肥料成分の吸着力にまざるので、園芸用土の配合資材として広く用いられている。用途(主な効果)は保水性の改善									
バーミキュライト	軽量で保水性にすぐれ、肥料成分の吸着力にまざるので、園芸用土の配合資材として広く用いられている。									
パーライト	多孔質で透水・通気性に優れ、重粘土畑や、樹園地の改良、鉢物用土の配合資材などに用いられている。									
1～5刷	P164	<p>文字追加 左段 8行目(農林水産省による石灰窒素の緩効性肥料の指定を受けての記載文章の修正)</p> <p>分解の速さは肥料の粒の大きさにより調節できる。平成25年に石灰窒素が化学合成緩効性肥料窒素肥料に追加された。</p>								
1～5刷	P168	<p>文字削除</p> <table border="1"> <tr> <td>けい薬土焼成粒</td> <td>けい薬土を粒状にし、1,000℃以上の高温で焼いて、セラミック化したもの。粗孔隙と細孔隙を含む多孔質構造によって透水通気性、保水性にも高い性能を示し、土壌物理性の改善、根系発達にも役立つ。見かけ比重0.50～0.60と軽量である。パーライトと同様土壌透水性の改善効果の表示が認められる。</td> </tr> </table>	けい薬土焼成粒	けい薬土を粒状にし、1,000℃以上の高温で焼いて、セラミック化したもの。粗孔隙と細孔隙を含む多孔質構造によって透水通気性、保水性にも高い性能を示し、土壌物理性の改善、根系発達にも役立つ。見かけ比重0.50～0.60と軽量である。 パーライトと同様土壌透水性の改善効果の表示が認められる。						
けい薬土焼成粒	けい薬土を粒状にし、1,000℃以上の高温で焼いて、セラミック化したもの。粗孔隙と細孔隙を含む多孔質構造によって透水通気性、保水性にも高い性能を示し、土壌物理性の改善、根系発達にも役立つ。見かけ比重0.50～0.60と軽量である。 パーライトと同様土壌透水性の改善効果の表示が認められる。									
1～5刷	P217	<p>資料を挿入</p> <p>表10-3の注：礫の大きさ・・・のすぐ上に</p> <p>資料：日本農学会法 挿入</p>								

3. 土壤医検定参考書3級の正誤

対象刷版	ページ	行、図表 (正)(誤)
1刷	P15	下から3行目 文字追加 (正) 出穂前20日前後 (誤) 出穂20日前後
1刷	P35	図3-5 タイトル説明文 文字修正 (正) 土壤病害 (誤) 土壤微生物

4. 土壤医検定試験既出問題集

対象刷版	ページ	行、図表 (正)(誤)
1刷	P152	8行目 文字修正 (正) 欠乏症 (誤) 過剰症
1刷	P250	15行目 (正) 正しい (誤) 間違い